

第9回 コミュニケーション教育研究会 議事録

日時：平成 20 年 3 月 26 日（木） 16:40-18:30

場所：湘北短期大学 1号館 128 教室

参加者：藤沢高校 住谷先生；川崎総合科学高校 原先生；茅ヶ崎高校 三橋先生
湘北短期大学 伊藤、岩崎、小野目、高橋、野口、藤澤、小棹（敬称略）

配布資料：

1. 「コミュニケーションリテラシー」実施報告(連絡協議会資料)
2. 「コミュニケーションリテラシー」参加者名簿
3. 「コミュニケーションリテラシー」アンケート実施結果

議事

1. 「コミュニケーションリテラシー」実施報告 [資料 2]

修了証未授与の生徒 4 人に関しては、入学後にセンター長が個別に授与する。
茅ヶ崎高校の欠席者 1 名からは、アンケートと社会人基礎力申告シートが後日提出された。
2. 「コミュニケーションリテラシー」アンケート実施結果 [資料 3]
 - 受講生 30 名の入学後の学科内訳：情報メディア 12 名、総合ビジネス 11 名、保育 5 名、生活プロデュース 2 名。半数が教員の勧めで参加。
 - 本学実施の他の高大連携プログラムに参加したことのある生徒はわずか 5 名。
 - 講座受講後の感想としては、67%が「高校と大学の勉強の違いがなんとなくわかった」と答えており、講座の 2 大目的のうちの 1 つはほぼ達成された。次に多かったのは、勉学やスキル向上の必要性を認識した回答であった。また、半数が「問題発見や解決の方法がなんとなくわかった」と答えている。
 - 受講後に、さらに内容を深めたい、あるいは他に学びたい項目として、読み書きの技術、パソコンスキル系がそれぞれほぼ半数であった。
 - 本講座だけでなく、各学科で与えられる課題の内容も含めて総合的に考えて、入学前に何を学ぶべきか、を問うた結果、上記と同様の傾向があったが、「いろいろなことに挑戦すること」、「自ら積極的にやらなければならないこと」との回答があった。
3. 平成 20 年度コミュニケーション教育研究会実施に関して
 - 拡大することを基本方針とする。
 - ①時間的な拡大：12 コマから 15 コマ（Excel の時間が足りない、グループ構成に時間がかかる）
3 クール
—今後推薦入学で進路を決定する生徒がさらに増加する
—時期も前倒しすることが可能（12 月～）
 - ②内容的な拡大：他テーマの講座も設ける
—土曜講座や、正規授業を縮小して接続講座に余力を投入

—県教委での提供されているテーマ

Citizenship 教育

金融教育

法教育

など

Citizenship 教育は、内容がお寒い現状であるので、大学の提供科目とすると深みが持たせることができる。私立大学での科目であれば、市議などに話をしてもらうことも可能か。市民と政治家の対話と考えると、コミュニケーションリテラシーの延長で考えることができる。

話す技術

書く技術

論理的思考、論理トレーニング

Critical thinking

など

③人的な拡大：他の高校から参加者を募る

—直接個人にお願いする

- アンケートの実施

前年度の内容を Modify する

全国規模

設問に上記教育の必要性を問う項目を入れる

- フォーラムの実施

平成 21 年 1-3 月の間に実施

テーマは基調講演者によって考える

第 1 候補：県教委

第 2 候補：文科省

第 3 候補：経産省

次回開催予定

平成 20 年度第 1 回 4 月 24 日（木） 16:40～18:10

湘北短期大学 128 教室

議題：コミュニケーションリテラシー受講生の追跡調査に関して

以上